



## 青年グループ 活性化事業

### (1) 青年グループ活性化事業の

#### きつかけ及び経緯①

平成7年に地域づくり事業「うらがまちづくり推進事業」(「うらがまち」とは、福井の方言で「わたしのまち」の意味)を当時の市内における全43公民館地区ごとに実施しました(現在も継続してまちづくり事業は行われています)。

結果として地区の活性化等を促すまちづくり活動に発展するなど大きな成果を収めました。まちづくり活動の中心には、かつての青年団OBの姿が数多く見られました。彼らは、壮年会、婦人会などの地域のリーダーとなって、活発に活躍していたのです。

一方で、若者の参加が非常に少なかったことが大きな課題として挙げられました。もし今、この青年の課題に取り組みないと、将来の地域活動の担い手はいなくなり、将来的には、壮年会、婦人会等の地域団体活動、自治会活動、果ては公民館活動の衰退化につながるのではないかと、という危機感を生じさせるものでした。そこで、福井市では青年グループの活性化及び組織化を図り、将来の地域リーダーの発掘・育成につなげていくこと

表 福井市青年グループ活性化事業年表

年度	内容
平成7年度	地域づくり事業である「うらがまちづくり推進事業」を、当時の福井市43地区にて実施。各地区の歴史・文化・自然などを活かしたまちづくり活動により、地区の活性化に大きな成果を収めた。
平成9年度	「うらがまちづくり推進事業」は、1人ひとりが1役を担う運動会型まちづくりであることなどが大きく評価され、当時の自治大臣表彰を受けた。全国的にも大きな評価を受けた一方、若者の参加が少なかったということが、大きな課題として挙げられた。
平成12年度	青年教育のモデル地区として、8地区(足羽、松本、日之出、社北、和田、明新、殿下、本郷)を選定。各地区とも、設立に向けて協議。
平成13年度	青年グループ活性化事業を実施。公民館を中心に青年教育事業を展開。10グループ誕生。
平成14年度	初めて、市全体の青年グループ同士の意見交換会を実施。
平成18年度	18グループが活動。
平成21年度	19グループが活動。(一乗地区が追加)
平成22年度	17グループが活動。
平成23年度	17グループが活動。約340名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)
平成24年度	17グループが活動。約260名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)
平成25年度	18グループが活動。約280名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)
平成26年度	19グループが活動。約260名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)
平成27年度	30グループが活動。約450名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)
平成28年度	37グループが活動。約600名が活動。(中央公民館青年自治会除く。)

を目的として、平成12年度にモデル事業化、平成13年度から市内42地区で、「青年グループ活性化事業」を公民館を中心に展開することとした（現在は、48地区館において展開）。

## (2) 青年グループ活性化事業

### のきつかけ及び経緯②

前掲の表のとおり、青年グループ活性化事業の成果は、数字上のグループ数や参加人数からい

えば、横ばいなし右肩下がり状態であった。実際、青年グループの有無に関わらず、一律8万円を交付するだけの事業となっており、

多くの地区で、地区成人式の費用に充てられているというのが現状であった。すなわち、青年グループの活性化及び組織化を図り、

将来の地域リーダーの発掘・育成につなげていくという本事業の目的を達成できていないということになっていました。

そのような状況において、わたしは平成26年度に生涯学習室に異動となり、青年教育の担当となりました。まず、1年目は

現状把握と原因分析を行い、その原因は大きく、青年グループ活動のマンネリ化と青年グループの支援者の認識不足にあると

考えました。そこで、改善の方針を、①公民館の取り組みの強化、②青年グループ活動のマンネリ化の防止・改善に定め、制度・施策の見直しを行いました。

この点、本稿では紙面の関係上、①公民館の取り組みの強化について述べていきます。

(3) 青年グループ活性化事業の事業見直し

改善方針の①公民館の取り組みの強化としては、まず、本事業の目的である「青年グループの活性化及び組織化を図り、将来の地域リーダーの発掘・育成につなげていくこと」を再認識してもらうこと、次に、各公民館で取り組みに関しての能力や意欲、状況が異なることから、いわばやる気のある公民館にインセンティブをもたらすことを考えました。具体的には、平成27年度から交付金額の配分見直しを行いました。一律8万円の交付を廃止し、4つの事業に分け、青年グループの支援

のため、の事業及び青年グループ活性化・組織化を図るための選択事業を創設しました。その後、平成28年度、29年度と改良修正を加えて、現在は下表のとおりです。

結果として、平成26年度は、19グループ、268名の参加があった活動から、平成27年度は30グループ約450名、平成28年度は37グループ、約600名と

グループ数は倍近く、活動参加者数は倍以上になるとい

う数字上は大きな効果がありました。

分析・展望

(1) 分析

青年グループ活性化事業が、なぜ長期間にわたって継続的に、少なくとも予算が投入されてきたのか、また、ある程度の成果を挙げて来られたのかを少し分析します。

分析

分析

分析

表 平成29年度青年グループ活性化事業区分及び交付金額

事業名	定義	交付金額
①教育基礎事業	若者の地域参画を促進するための青年教育(②③を除いたもの)	1公民館あたり、青年グループがあるものには80,000円※1、青年グループがないものには40,000円
②グループ活性化事業(選択事業)	青年グループがある公民館がそのグループの活動を活性化するためのもの	1公民館あたり(青年グループがあるもの)予算の範囲内で30,000円を上限に追加交付
③グループ組織化事業(選択事業)	公民館※2が青年グループの組織化に取り組むもの	1公民館あたり、予算の範囲内で、青年グループがあるものには30,000円を、青年グループがないものには60,000円を上限に追加交付

※1 グループ支援という目的の周知が図れたこと、及び公民館の経理実務を簡略化するため、支援事業を廃止。

※2 対象となる青年層の気質や取組の現状を鑑みて、1地区1グループではなく、複数グループを推奨し、推進するため。

動機の部分においては、青年グループ活性化事業の目的・経緯にあるように、まず、地域住民の将来における地域コミュニティ衰退への危機意識が挙げられます。また、地域の中で業務を行っている公民館職員にもこの危機感が共有されています（公民館職員が参加する様々なワークショップや研修の中で地域課題として「地域の担い手不足」が必ず挙げられます）。

郷土愛を持つ単位としてふさわしいということです。

二つ目に、公民館職員の配置にあります。各公民館には館長1名、主事2〜3名、管理人1名があり、市全体では、館長50名、主事130名、管理人49名がいます。そのうち、館長と主事は、公民館運営審議会が主体となった公民館職員選考委員会の選考・内申により推薦され、教育委員会で委嘱するという手続になっています。これによって、地域で働く職員を地域の人たちが選ぶこととなつていきます。

三つ目に、公民館運営審議会が各公民館ごとに設置されていることです。公民館運営審議会は、各公民館とも20名以内の委員で構成され、地区を代表する各種団体長や小中学校長、有識者が委員として選出されています。各種団体等が情報交換、情報共有を図る場としても有効活用され、地域の状況や課題を把握し、公民館事業に反映させる機能を持っています。

さらに、福井市は公民館49館（中央公民館を除く。）を8ブロックに分けていますが、そのブロックごとに教育委員会の担当職員を置いていきます。福井市教育委員会が手厚く公民館をサポートすることを重視しているということが、特に昨今の自治体の人員削減及び経費削減の流れから見ても、現れていると思つていきます。

## 結びに

福井県は、小中学校の学力・体力全国トップレベルにあり、長寿の県でもあります。そのPR文が「なぜか長寿」であったように、学力・体力も長寿であることもその理由は複合的なものであり、他県のように明確に示せないというのが福井県の特徴であるとされます。

基盤を保持してきたことによると考えています。その営みが、住民相互の連帯を比較的保ち、地域力を生み出しているのではないかと。それが家庭や学校教育に波及しているのではないかと。そして、今後（現在も）、社会教育・地域活動の入口である、青年教育・青年グループ活動がますます重要になつてくると考えます。

また、労働組合運動と社会教育の両方に携わった者として、社会教育と組合運動の親和性、共通分野、労働教育の重要性などを感じているところです。その点も記述したいところですが、紙面の関係上割愛します。

本事業が改善しながら継続し、取り組まれていくことで、福井市が「なぜか若者が元気」、「なぜか地域が元気」と言われるような未来を望んでいます。

（取材）自治労福井市職員労働組合

特徴は、二つ目に、前述のとおり、福井市では小学校区ごとに1公民館を設置していることです。これは、小学校区が一番身近な生活圏であり、規模や住民意識において地域活動を行うための一体感や

さらに、福井市は公民館49館（中央公民館を除く。）を8ブロック

この他県と比較して「はつきりしないもの」、「目に見えないもの」とは、社会教育に携わるわたしのただの思い付きから言えば、それは福井県内では公民館を中心として、長年にわたってしっかりと社会教育や地域活動を進めている、また、それを可能とする



齋藤 法之